

車いす滑り止め好評

福井の内田燃系がベルト開発

福井市神当町の系加工会社「内田燃系」が開発した、車いすのタイヤに装着して雪道で滑りにくくするベルトが好評だ。独自の織物技術を生かした製品に福祉施設などが注目。内田一朗社長(金)は「車いす生活者に冬でも安心して外出してほしい」と話す。

同社が独自に開発したのはポリプロピレン系の繊維に天然ゴムを合わせた特殊な織物「カントベロン」。凍結した道は表面が水でぬれて滑りやすくなるが、この織物は表面の水を瞬時に吸着して排出し、摩擦を高めることが可能だ。靴に装着する滑り止め器具として二〇〇八年に特許を得た。

簡単装着「冬に安心し外出を」

一年三月、内田さんは、この器具を購入した奈良市の女性から「車いすで生活する娘に雪景色を見せてあげたい。車いす用の滑り止めを作れないか」と相談を受けた。雪道を走るには冬用タイヤへの交換が必要だが、着脱に手間がかかるなどの難点があるとのことだった。

「やってみます」と応じたものの、車いすで過ごした経験もない。車いす器具の会社を訪ねて仕組みなどを学び、カントベロンを組み合わせて試作品を作っては借りてきた車いすに装着。雪が積もった近所の集落でテストし、安定した走行ができるか、タイヤの回転が重たくならないかと試行錯誤を繰り返した。

車いすのタイヤに装着し、雪道で滑りにくくするベルトを開発した「内田燃系」の内田一朗社長＝福井市で



も確認し、依頼者の女性に「おでかけリング」と名付けてもらった。利用者のおしゃれ心にも配慮し、赤、青、銀など六色を用意した。

昨年十二月に一本一万二千六百円(税込み)で販売を始めること、福祉施設や車いす関連の業者のほか、雪深い地域の個人からも問い合わせが相次ぎ、サンプル品を含め一カ月半で四十本以上を提供。「事故で車いす生活になった子供が、初めての冬を迎えて心配だったので助かる」「北海道へ旅行に行きたい」などは、各地から寄せられた。使い心地などを聞いて改良を目指すといい、内田さんは「行きたいところに行くという希望をかなえる手助けがでるため力も不要だ。耐久性する。」